
芸術活動と社会のつながりに

ついでの研究

第1章 プロジェクトの概要など

1. プロジェクトの名称
美術活動と社会のつながりに関する研究

2. 研究目的

このプロジェクトは、美術館や博物館、街中のギャラリーなどでの作品の展示・美術活動が盛んに行われている京都において、実際のところ人々が美術に対してどれくらい興味を持っているのか、またどのくらいの頻度で美術に関連した施設に行っているかなど、美術に関連する事柄について調査する。また、私たち自身が学外・学内において美術作品を発表し、その利点・方法について学ぶとともに、どのようにして社会と関わることができるのか、という美術活動を通してのコミュニケーション方法についても考え、新しい発見と刺激を受けることを目的としている。

3. 代表者、及び構成員、助言教授

- 代表者
増田 絢乃 (美術領域専攻 1回)
- 構成員
前川恵利子 (美術領域専攻 1回)
坂 成美 (美術領域専攻 1回)
浅賀 詩織 (美術領域専攻 1回)
黒崎 瑞枝 (美術領域専攻 1回)

- 上野 真穂 (美術領域専攻 1回)
- 上村 絢音 (美術領域専攻 1回)
- 井上 萌 (美術領域専攻 1回)
- 大垣奈緒子 (美術領域専攻 1回)
- 中野 加奈 (美術領域専攻 1回)
- 藤田 美月 (美術領域専攻 1回)
- 寺島 壮一 (美術領域専攻 1回)
- 平田 健輔 (美術領域専攻 1回)
- 川満 和磨 (美術領域専攻 1回)
- 山本 侑亮 (美術領域専攻 1回)
- 石賀 楓芽 (美術領域専攻 1回)
- 多田 福直 (美術領域専攻 1回)

- 助言教員 岩村 伸一 (美術科)

第2章 内容や実施経過など

1. 取り組み、役割分担の決定

7月下旬頃

まず、どのようにして作品発表を行うかを話し合った結果、京都市内のギャラリーを借りて発表することに決定した。

発表の大まかな内容の決定

- 平面作品にする (個人制作)
- アンケート調査を実施する
- 作品発表者と広報及び研究記録者
とに役割分担

2. ギャラリーの決定、作品制作開始

8月上旬頃いくつかのギャラリーを候補として挙げ、検討した結果、以下の所で行うことにした。

- ギャラリー名 Exa ART
- 住所…京都市下京区寺町通四条下
る貞安前之町 594 岡本鏡店ビル 505号
- 理由…藤井大丸の隣に立地しているため、人通りが良い、ギャラリーが落ち着いた雰囲気である
- 作品はA3のイラストボードでトレーシングペーパーを用いて作成する
- 各々のコメントは書かず、作品名の

みのキャプションとする

3. ギャラリーでの展示

何度かギャラリーの方と打ち合わせを行い、搬入・搬出日の決定、展示方法について話し合った

● 開催期間…2013年9月26日～10月1日まで

● コンセプト…様々な都道府県から集まるのが大学の特徴の一つであることを生かし、各々の京都のイメージと自分の表現を融合させた。トレーシングペーパーを使うことによって、京都のようでそうでない、フィルターを通して見た京都というものを表現してみた。

● 来場者は約30名(宛名帳を必須にしなかった為、正確な人数が分からなかった)



展示風景



4. 3. と同じ内容の展示を学内のギャラリー—あなぐらでも実施

● 開催期間…2013年11月18日～11月22日

第3章 研究結果

1. アンケート結果…末尾に記載

回答者は学外27名、学内12名

2. アンケートを含めてのまとめ

①については近畿圏が多く、学内では九州から来られている方もいることがわかった。については学外では年齢が上の方から下の方まで幅広く展示をご覧になったが、学内では20代がほとんどであった。これは、場所によって変わってくるのではないかと思う。この場合、学外は大通りの立地であったので、様々な年代の人が行き交っていたが、学内はほとんどが学生である。したがってこのような結果が出たのではないだろうか。では、これを生かして展示する側があらかじめどの年代を対象にするかを決めた場合、立地によってどんな年代が見に来るかも見当がつくのではないかと考えた。

③についてはDMの必要性について考えることができた。DMはハガキのようなもので展示内容や開催場所がまとめられたものである。今回私たちは学内ではD棟に貼ったり、その他は知り合いに郵便で送ったりしたのだが、結果はDMをみて来場された方は少なかった。これは、宣伝する範囲が小さかったため、DMを見る機会があまりなかったのではないかと、思う。実際、来場者の声では「もっと沢山宣伝したらどうか」という意見があった。学外では周辺の他のギャラリーさんや本屋などに置かせてもらったり、DM自体を業者にたのんでデザイン性の高いものにするなど、工夫している人が多いと伺った。学内では談話室などの掲示板をいかして展示すると良いと思

った。

④と⑤では芸術への興味は普通であるが、一度は経験してみたい、という方が多いのかと考えた。⑥は学内は開講している講座の分野が多かった。学外では京都では昔から馴染みの深い日本画が圧倒的であった。⑦については地域の人はギャラリーなどが商店街の中に立地していることもあり、買い物の間などに訪れることもあるのではないかと考える。逆に学生は一度街に出かけなければならないので、この展示が見たい・時間に余裕がある、などの理由があるときにしかなかなか見られないのでは、と考えた。また、アンケートの結果を含め、学外・学内それぞれの利点についても考えた。

学外	学内
<ul style="list-style-type: none">・在廊中に直接絵について説明することができ、コミュニケーションができる。・年齢層の幅が広く、いろいろな人に見てもらえる・自分たち、また大学の取り組みについて直接知ってもらえる	<ul style="list-style-type: none">・若い人が多くみてくれる・学生から教授まで一般的な意見から専門的な意見まで伺える・展示がやりやすい

第4章 まとめや反省・今後の展望など

1. まとめ・反省

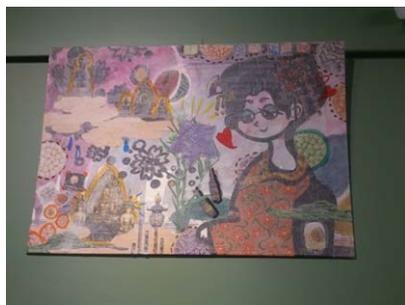
メンバー全員が初めてギャラリーを使って展示を行ったので、学外で展示する方法、順序などが学べてよかった。また、学外で展示することによって、地域の方とも話すことができ、いろんなことが聞けた。京都教育大学出身の方も沢山来てくださり、様々なお話を伺えた。反省点としては、宛名帳に記入してもらうことを必須としなかったので正確な来場者数がわからなかったことと、「それぞれの作品にコメントがほしかった」という意見があったので、それぞれの意図を表示しておくべきだったことが挙げられる。また、研究発表の仕方についても考えたい。

2. 今後の展望

作品の発表方法は、ワークショップを行ったり、ライブペイントをしたりとまだまだたくさんの方が存在するので、それらを試してみても良い、と思った。また、アンケートのところでも記述したが、対象年齢を決めて展示を行うとどのような結果がでるのかもやってみてはどうか、と考えた。



大垣 奈緒子



上村 絢音



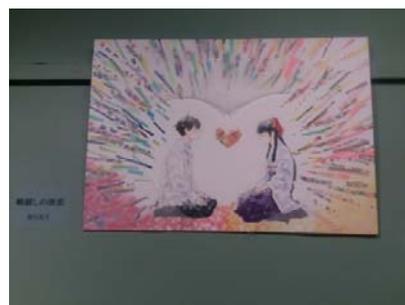
上野 真穂



前川 恵利子



増田 絢乃



藤田 美月



浅賀 詩織



中野 加奈



坂 成美



黒崎 瑞枝



井上 萌

● 使用したアンケート

1. どの都道府県からいらっしゃいましたか。

()

2. ご年齢を教えてください

1 10代 2 20代 3 30代 4 40代 5 50代 6 60以上

3. この展示をどうやってお知りになりましたか。

1 DMで 2 知人の紹介 3 通りすがり 4 その他 ()

4. 芸術に関して興味がありますか。

1 とてもある 2 普通 3 あまりない 4 ない

5. 芸術に関することをやってみたいとおもいますか。

1 はい 2 いいえ

6. あなたが興味のあるものに○をしてください。(複数回答可)

1 油絵 2 日本画 3 陶芸 4 彫刻 5 デザイン 6 金属工芸

7 演劇 8 器楽 9 オペラ 10 ミュージカル

11 その他 () 12 ない

7. 普段から美術館やギャラリーを訪れますか。

1 週に1回ほど 2 月に1回ほど 3 年に2～3回ほど 4 あまり行かない

8. その他お気づきの点や感想など自由にお書き下さい。

()

ご協力ありがとうございました。

① どの都道府県から来たか

学外	学内
京都 19名	京都 8名
大阪 5名	鳥取 1名
奈良 1名	宮崎 1名
	兵庫 1名
	大阪 1名

② 年齢

学外		学内
1位	60代	20代
2位	10代	40・60代
3位	20・50代	

① どうやってこの展示を知ったか

学外		学内
とてもある	15名	6名
普通	12名	5名
あまりない	0名	1名
ない	0名	0名

① 芸術分野をやってみたいと思うか

	学外	学内
はい	22名	10名
いいえ	5名	2名

② 興味のある分野

	学外	学内
1位	日本画	金属工芸
2位	デザイン	デザイン・油画
3位	油画	日本画・陶芸・彫刻
その他		写真・現代美術・木工

⑦ 美術館やギャラリーを訪れる頻度

	学外	学内
1位	週に1回ほど	月に1回ほど
2位	年に2～3回	週に1回・あまり行かない・ 年2～3回
3位	あまり行かない	